

栃木県公共事業事後評価 事後評価書
【農政部 農地整備事業】

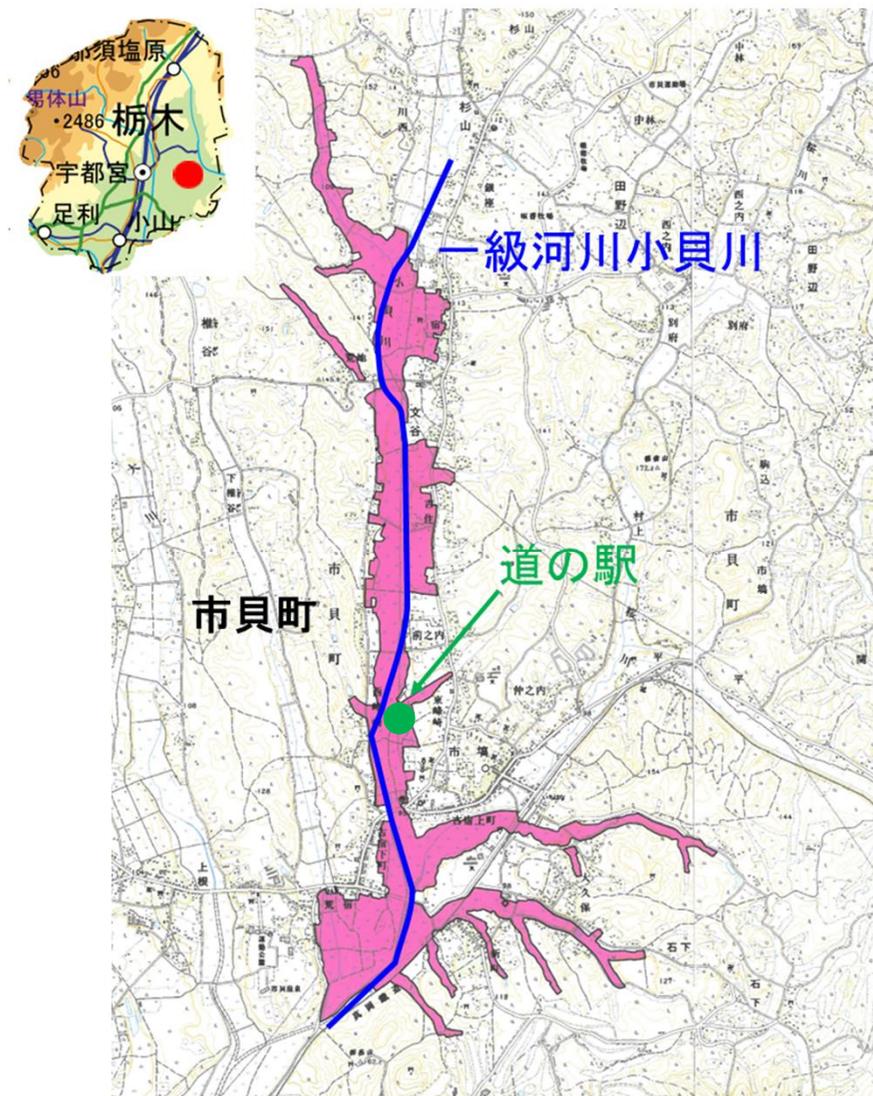
事業名	農地整備事業
事業箇所	市貝町 市塙、文谷、杉山地内
事業主体	栃木県
事業担当課	農政部 農地整備課

1 事業の概要

○ 地区の概要

事業名	県営農地整備事業
事業主体	栃木県
事業箇所	市貝町 市塙、文谷、杉山
受益面積	173.8ha（田168.3ha、畑5.0ha）
受益者数	302人
整備内容	区画整理173.8ha <ul style="list-style-type: none">・ 整地工 173.8 ha・ 用水路工 51.5 km・ 排水路工 26.3 km・ 道路工 25.5 km・ 暗渠排水102.8 ha
事業費	36.1億円 (国50% 県30% 町12.5% 地元7.5%)
事業期間	平成19年度～平成29年度

【位置図】



1 事業の概要



- 生産基盤と生活環境の整備を行い、担い手への農地集積を進め経営規模の拡大。
- 暗渠排水の整備を行い、大型機械を利用した農作業の省力化・効率化による生産コストの低減や農地の汎用化。

2 事業内容の変化

(1) 事業費等の変化

項目	事業採択時(H19)	事業完成時(H29)	増減
総事業費	31.9 億円	36.1 億円	4.2 億円 (13.2%)
工期	H19~H24	H19~H29	5 年

- ・ 総事業費：用水系統見直しに伴う用水路延長増及び農地汎用化のための暗渠排水施工増のため4.2億円の増
- ・ 事業工期：一級河川小貝川に関わる河川用地の地区編入手続きや町道の未登記地の処理に期間を要したため5年延長

(2) 農地区画の変化

区画	実施前 (H19)	計画 (H24)	現在 (R5)
0.5 ha以上	1.7(0.9 %)	96.4(56.2 %)	82.0(47.2 %)
0.3 ~ 0.5 ha未満	26.8(14.7 %)	44.5(26.0 %)	53.4(30.7 %)
0.3 ha未満	<u>154.4(84.4 %)</u>	30.5(17.8 %)	38.4(22.1 %)
計	182.9 ha	171.4ha	173.8 ha

} -77.9%

3 事業効果の発現状況

(1) 担い手数の変化

単位：人

経営面積※ ²	担い手 (水稲)		担い手 (水稲+施設野菜)		合計	
	実施前 (H19)	現在 (R4)	実施前 (H19)	現在 (R4)	実施前 (H19)	現在 (R4)
20ha 以上		1(1)				1(1)
10～20ha 未満		2(1)	1	1	1	3(1)
5～10ha 未満		4(1)		1		5(1)
1～5ha 未満	5				5	
1ha 未満						
計	5	7(3)	1	2	<u>6</u>	<u>9(3)</u> ³

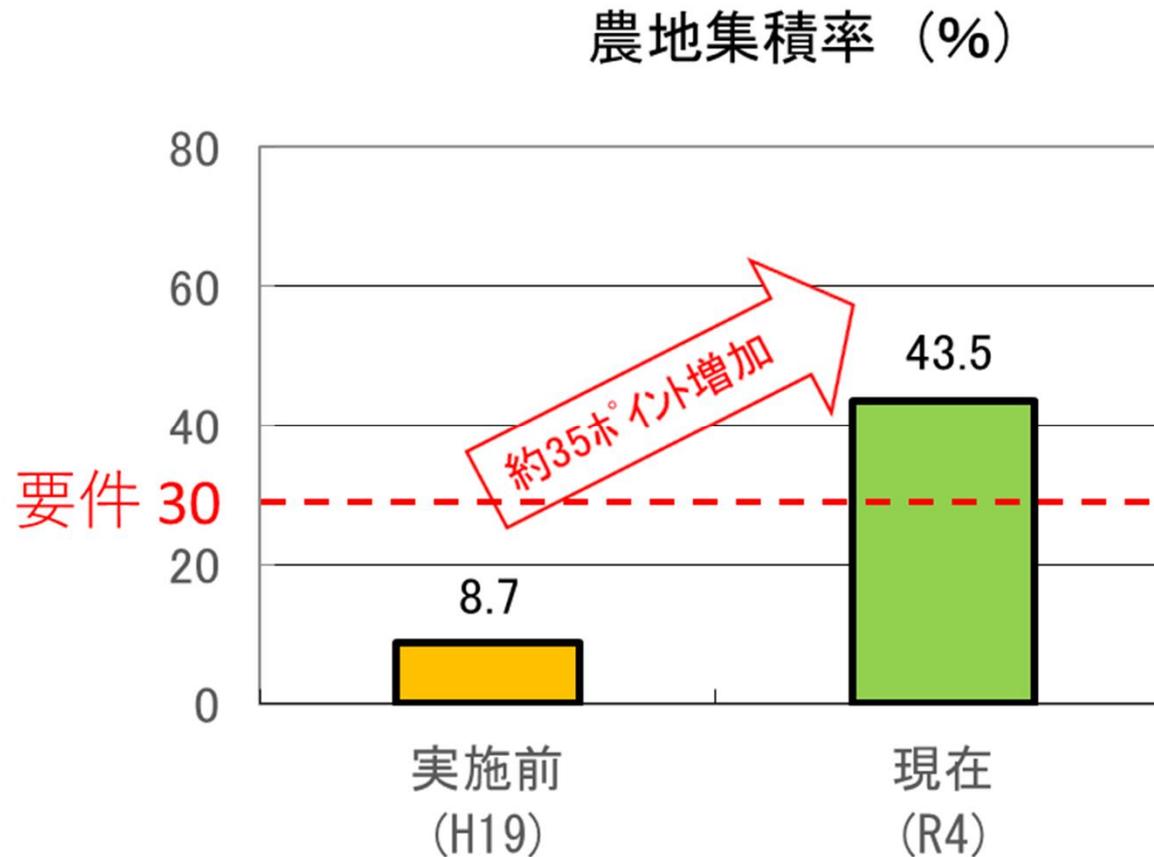
※1 担い手：基盤整備関連経営体育成等促進計画書に位置付けられた認定
農業者や中心経営体

※2 経営面積には地区外を含む

※3 ()内は後継者のいる担い手数

3 事業効果の発現状況

(2) 農地集積の変化

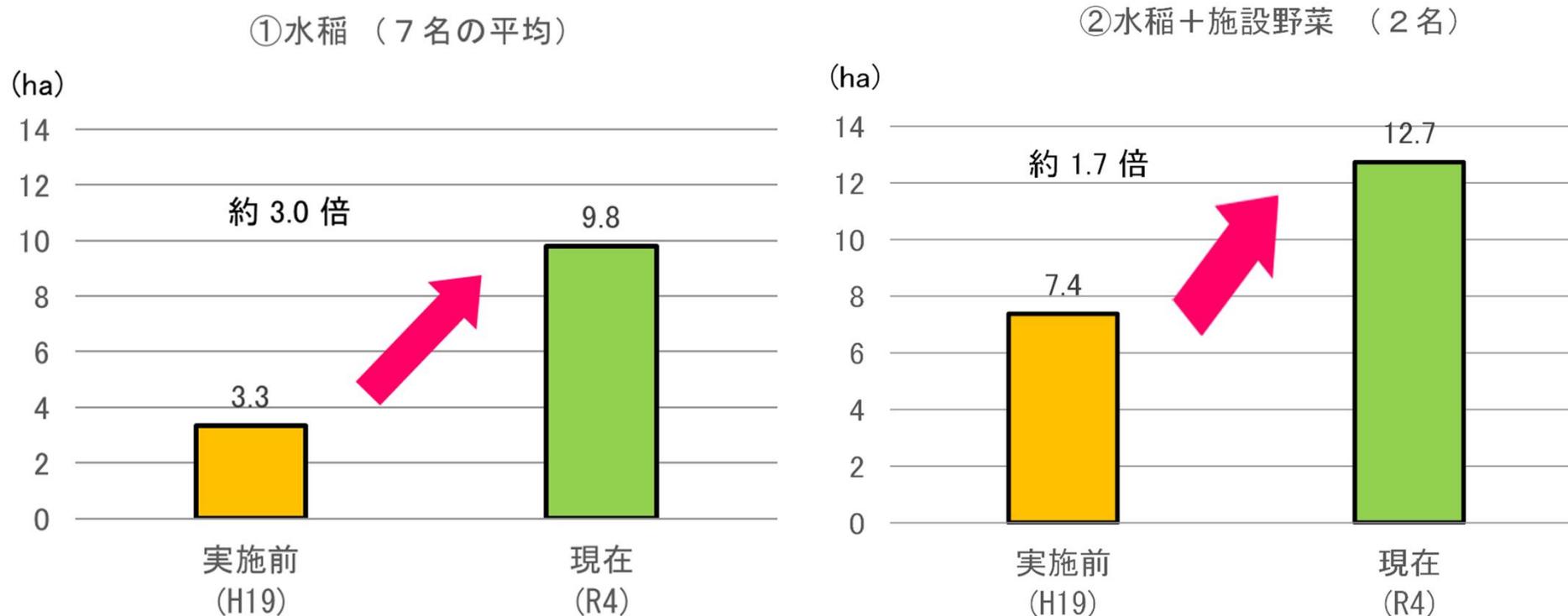


農地や用排水路、農道などの生産基盤が整備されたことにより、農地の貸借が進み、担い手への農地集積の割合が約44%となり約35ポイント(59ha)増加

3 事業効果の発現状況

(3) 経営面積の変化

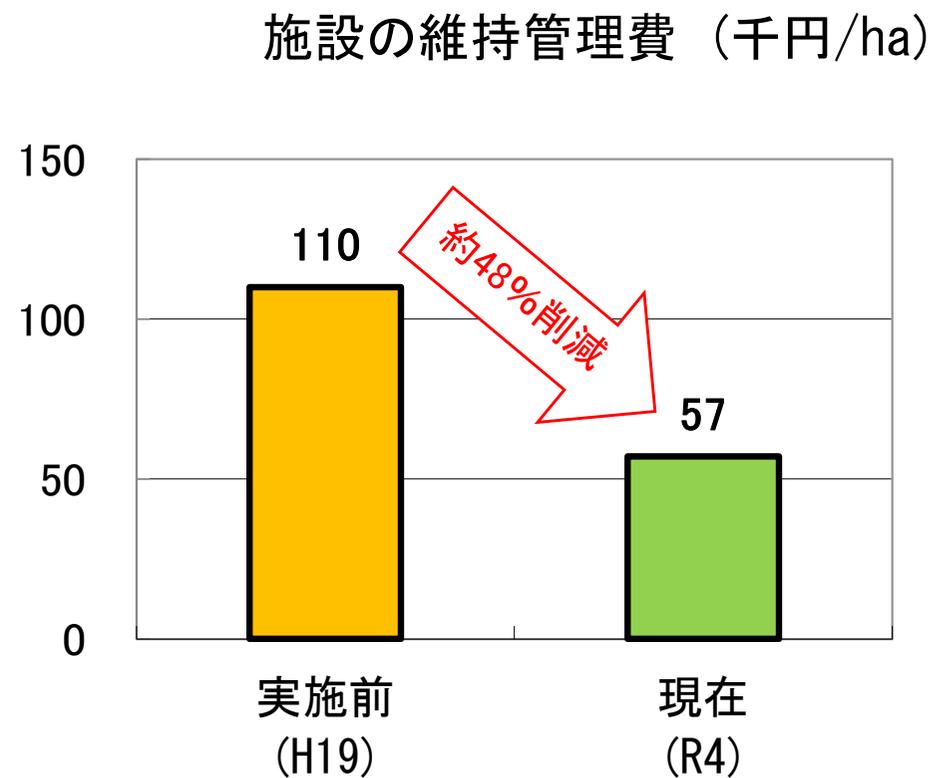
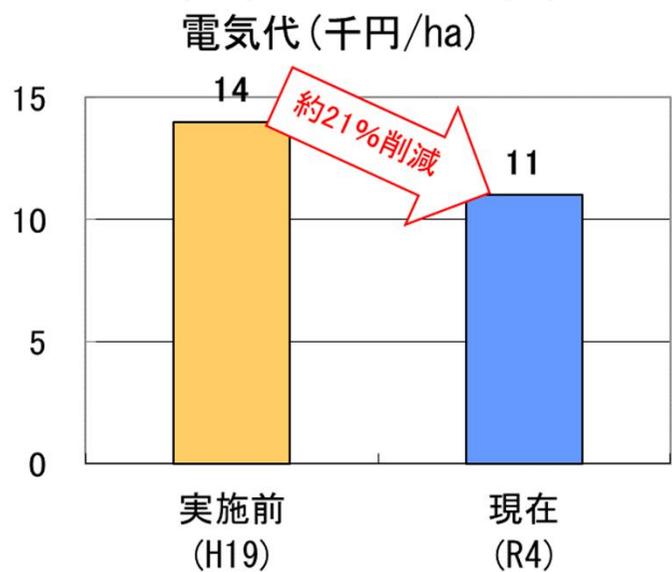
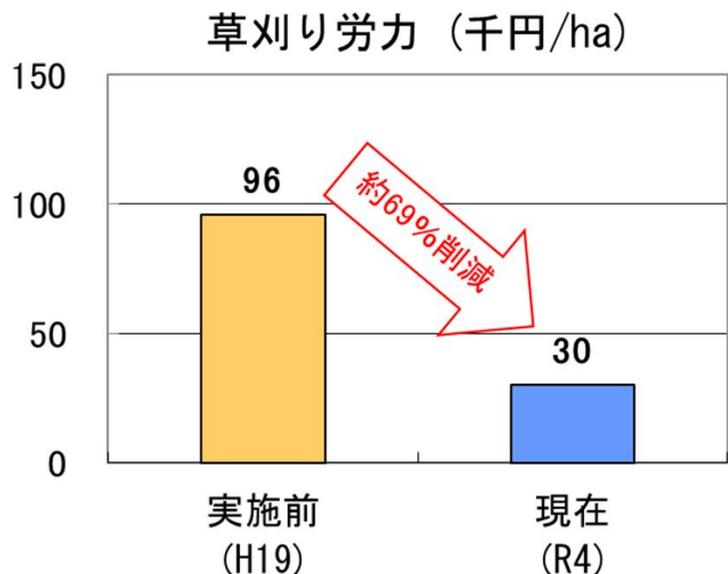
担い手の経営面積 (ha/人)



※ 土地改良区の調査、経営面積には地区外含む
(芳賀農業振興事務所調べ)

3 事業効果の発現状況

(4) 維持管理費の変化



(芳賀農業振興事務所調べ)

3 事業効果の発現状況

(5) 農作物の作付け状況

○実施前に作付けしていなかった飼料用米を19ha作付け。



※濃い緑が飼料用米
(写真はイメージ)

○実施前に42.3haあった管理休耕等が、12.8haに減少。



※水を張って雑草対策
(写真はイメージ)

3 事業効果の発現状況

(6) 効率的な土地利用計画

道の駅



生態系保全地



県道用地



4 事業により整備された施設の管理状況

整備後の道路水路



活動組織による草刈り



水路の土砂さらい



5 社会経済情勢の変化

(1) 道の駅の効果

○道の駅「サシバの里いちかい」には、農産物直売所や地域の食材を使用したレストラン等

→農産物の販売ルートの確保や雇用を創出。

○魚類や両生類等の生態系に配慮した保全地を整備、道の駅は生き物調査等のイベントの活動拠点としても活用

→地域の活性化や都市住民との交流に寄与。

道の駅での生き物調査のイベント実施



道の駅で宇都宮市内幼稚園と生き物調査で交流

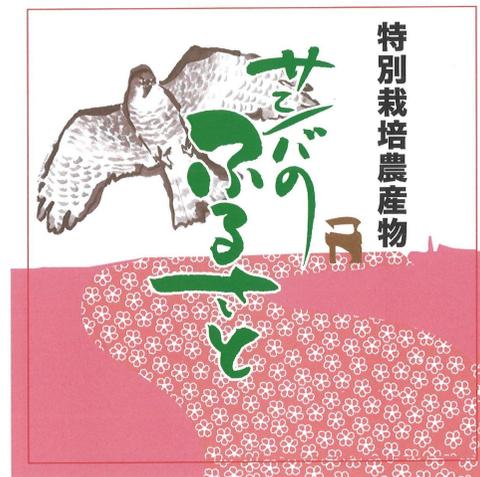


5 社会経済情勢の変化

(2) 農作物のブランド化

○地区内の一部の農家では特別栽培米に取り組む、市貝町のブランドである特別栽培農産物「サシバのふるさと」として、道の駅「サシバの里いちかい」や町内小売店で販売。

→環境負荷低減と収益向上を目指したとちぎグリーン農業や新たなブランドへの取組へ貢献。

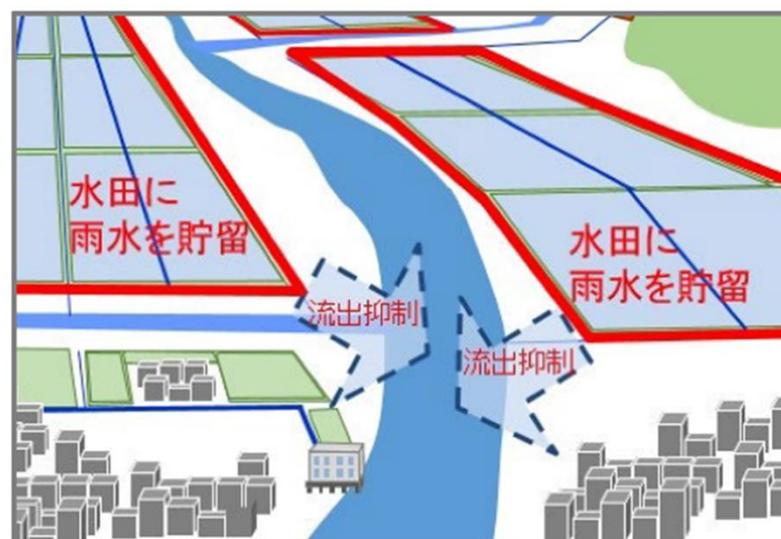


6 事業実施による環境の変化

(1) 防災・減災の効果

○畦畔を強靱化し雨水を一時的に貯留し排水量を調整する「田んぼダム」の実装を可能とする水田を整備。

→水田に雨水を一時的に「ためる」ことによって、河川の負担を軽くし、水害リスクを軽減する取組（栃木県流域治水プロジェクト）に期待。



6 事業実施による環境の変化

(2) 担い手の農作業機械の大型化

①トラクタ

実施前				現在			
～29PS	～39PS	～49PS	50PS～	～29PS	～39PS	～49PS	50PS～
5	4	5	<u>1</u>	8	5	3	<u>5</u>
計	15			計	21		

②田植え機

実施前		現在	
6条	8条	6条	8条
7	<u>—</u>	5	<u>4</u>
計	7	計	9

③コンバイン

実施前			現在		
3条	4条	6条	3条	4条	6条
2	7	<u>—</u>	1	7	<u>1</u>
計	9		計	9	

7 今後の課題と方向性

(1) 担い手への農地集積

○本地区の担い手への農地集積率は43.5%

- ⇒ 農地バンクを活用して農地の集積・集約化を一層推進
- ⇒ 地域計画の話し合いを活用し、担い手の確保を促進

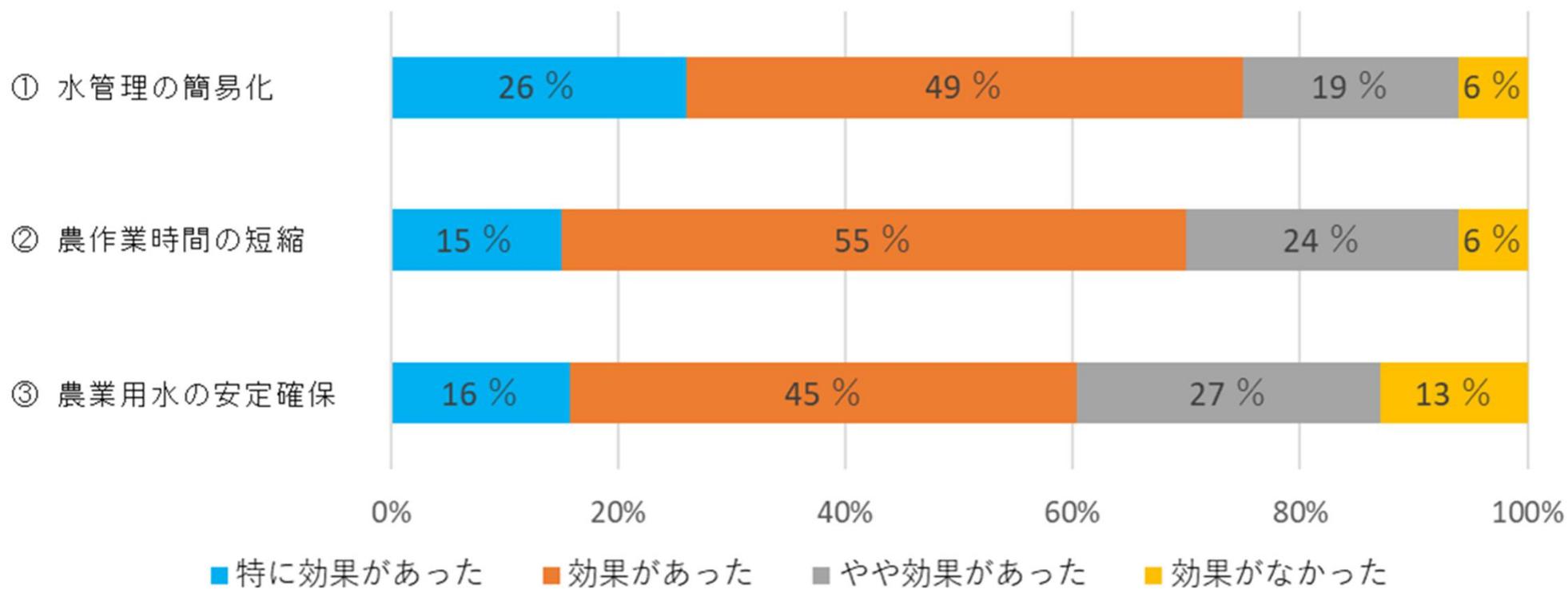
(2) 園芸作物等の導入

○水稲中心の営農形態で、管理休耕等が12.8ha

- ⇒ 食用米から麦・大豆や園芸作物への転換を図る必要があることから、管理休耕農地への対応や輸出を視野にした農作物販路の拡大を含めて、JAと連携して地域の話し合いを支援。

[参考：アンケート調査結果について]

(1) 農家を対象としたアンケート結果



[参考：アンケート調査結果について]

(2) 農家・非農家を対象としたアンケート結果

